



鳥獣被害対策における地域ぐるみの対策（集落環境診断）を実践できる人材の育成を目的として、集落環境診断指導者養成編 第2回を開催しました。

今回は、果樹産地である笠間市泉地区を実習場所として、午前にはイノシシの痕跡や耕作放棄地・やぶの位置の把握、防護柵の設置状況を確認しながら、現地地点検を実施しました。現地地点検の際にはイノシシによる食害がみられる柿のほ場も見受けられました。午後は、現地地点検の結果を地図化したものを参考にしながら、集落における鳥獣被害対策の課題や今後の対策を話し合い、有意義な研修となりました。

講座名 野生鳥獣による農作物被害対策研修 集落環境診断指導者養成編
第2回「 集落環境診断手法の実践 」

日 時 令和4年10月25日（月） 午前9時から午後4時

場 所 笠間市山根公民館及び笠間市泉地区

出席者 27名

受講生の声（抜粋）

- ・地域の人と話し合いながら、現状把握と対策について考えることができ、良い経験になった。
- ・果樹が多い地域でのイノシシの加害の仕方の事例として参考になりました。
- ・自分たちなりの鳥獣被害対策を進めてきたが、研修を受けることで新たな知識を習得することができ、大変勉強になった。

講師のコメント

泉地区は、地域全体で捕獲する意識が高く、緩衝帯や耕作放棄地の整備を進めることができれば、獣害をより一層減らすことができるのではないかと考えられた。地域一体となって対策を進めていくことは簡単ではないと思うが、今回の診断結果を活かしながら、地域の方々と話し合って、より良い対策となるように頑張してほしい。